新潟県愛鳥センター紫雲寺さえずりの里

シジュウカラ第93号

§　新潟県野鳥保護の集い（胎内市）§

「令和元年度新潟県野鳥保護の集い」（共催：新潟県野鳥愛護会）が6月15日(土)～16日(日)に胎内市奥胎内「奥胎内ヒュッテ」を会場に開催されました。(参加者数：38名)

○新潟県野鳥保護の集い　15日(土)16:00～

【講演】

「奥胎内の野鳥保護」

講師　新潟県野鳥愛護会会員　布川　耕市　氏

奥胎内の野鳥保護の歴史について講演いただきました。

元々、奥胎内地区は道路がなく、二王子岳や関川方面から入山するしかない、山深い場所であったこともあり、野鳥が生息する環境が整っていたとのこと。

昭和31年に胎内川開発事業に伴い道路が整備され、昭和62年には全国野鳥保護の集いが開催された。今年から稼働した奥胎内ダムの建設に至っては、環境アセスメントを実施するなどイヌワシの生息に配慮した工事計画が組まれ、環境保全を意識した建設になったとのこと。

近年は、アクセスの良さから観光客やカメラマンが増加し、野鳥へのマナーが問題視されている。マナーを守り野鳥観察を楽しんでほしいと話をされました。

【講演】

「ブナ林の成り立ちが野鳥のすみかをつくる！？」

講師　新潟大学農学部教授　箕口　秀夫　氏

新潟県は樹洞が形成しやすい環境にあり、樹洞を野鳥たちがどのように利用しているかを講演いただいた。

樹洞には2種類あり、枝が折れ形成したような自然樹洞と、キツツキ類が作ったキツツキ樹洞に分けられる。樹洞の形成には、樹木の直径や標高、カミキリムシの樹木の利用など複合的に関連していて、キツツキ樹洞は枯死木に多いとのこと。

樹洞を利用する野鳥は、繁殖期には樹洞営巣鳥類のシジュウカラやキツツキ類が多く利用している。

非繁殖期には種類は減るものの、樹洞の利用を確認しているとのこと。

野鳥にとって樹洞は住み処で、繁殖場所であり、必要な環境であることを講演いただきました。

講演会の様子

早朝探鳥会の様子

【コノハズクの声を聞く会】

15日(土)19:40～21:00

場所：奥胎内ヒュッテ周辺

ヒュッテのロビーを出ると、コノハズクの声が出迎えてくれました。ヒュッテを起点に2班に分かれ周辺を観察しましたが、2班とも複数のコノハズクを確認することができました。その他にヨタカも確認できました。

【早朝探鳥会】

16日(日)4:30～7:00

小雨の中3班に分かれ観察しました。オオルリの姿やアカショウビンの声を確認できました。胎内川沿いを観察する班はオシドリの確認を観察することができました。雨が次第に強くなり、途中で予定を切り上げる班もありましたが、県内有数の探鳥地で34種を観察することができました。

観察種：オシドリ、キジバト、アオバト、ホトトギス、ツツドリ、トビ、サシバ、アカショウビン、コゲラ、オオアカゲラ、アカゲラ、モズ、カケス、ハシブトガラス、コガラ、ヤマガラ、ヒガラ、シジュウカラ、ヒヨドリ、ウグイス、ヤブサメ、エナガ、メボソムシクイ、センダイムシクイ、メジロ、ゴジュウカラ、ミソサザイ、カワガラス、クロツグミ、キビタキ、オオルリ、キセキレイ、イカル、ホオジロ

油汚染事故による海鳥への影響

すっかり秋も深くなり、これから新潟には厳しい冬がやってきます。冬の日本海は時化ることが多く、海難事故の確率も高くなるそうです。そこで心配なのが油汚染です。皆さんテレビなどで油にまみれ真っ黒になった海鳥をご覧になりなったことがあると思います。これは鳥にとって命が助かるかどうかという難しい状況です。しかし、体のほんの一部分に油がついてしまっても同じように危険な状態だということはあまり知られていないようです。鳥は羽についた油を取り除こうと懸命に羽繕いし、油を体内に取り込んでしまうのです。また、油で汚れた羽毛は撥水性を失うため水に浮かぶことができず、さらに体温を保つことができず衰弱させます。たとえきれいに洗浄しても死んでしまうことがあるのは、このように油の毒性によるもの、低体温・衰弱が主な原因なのです。少し汚れただけだから大丈夫ではないのがおわかりいただけたでしょうか。どこかで鳥に油が付着しているのを見つけたら、傷ついた野鳥を見つけたときと同じく、県の窓口にお知らせいただくようお願いします。

収容されたハシブトウミガラス

洗浄して付着した油を落とします

放鳥

§ 令和元年度 新潟県野生生物保護実績発表大会 §

新潟県では、現在34校の小中学校が愛鳥モデル校として指定されており、毎年各校で行った活動を報告いただいています。

それらを書類選考のうえ県大会を8月7日に新潟県自治会館本館で開催しました。各学校数名ずつ前に出てきてもらい、学校での取り組みを発表していただきました。

審査結果は以下のとおりです。

金賞	新潟市立赤塚中学校
銀賞	上越市立春日小学校
銅賞	阿賀野市立水原小学校

金賞受賞（赤塚中学校）

金賞を受賞した赤塚中学校は、身近な佐潟の潟文化の歴史に触れながら現在のクリーン活動に邁進する様子が発表され、今後ますます佐潟の環境や傷病白鳥の飼育活動とも合わせた考察が展開されることが期待されます。

豊かな春日山への思いが伝わる発表（春日小学校）

白鳥パトロール隊の活動を元気に発表（水原小学校）

銀賞を受賞した春日小学校は、春日山で見られた鳥の歴史ある記録を継続的に作っていて生徒達の考察が素晴らしかったです。

銅賞を受賞した水原小学校は、地域の方々と瓢湖の白鳥を守る活動を協力して行っている様子がよく伝わりました。

3校とも環境保全活動の実績のある学校で、順位のつけ難い発表となりました。身近な地域の豊かな環境を大切に思う気持ちがそれぞれの活動から伝わりました。

§傷病鳥獣の収容状況§

令和元年度4月～7月の傷病鳥獣収容結果

収容NO.	種類	3月末収容数	収容数	放鳥獣	返還譲渡	死亡	7月末収容数	収容NO.	種類	3月末収容数	収容数	放鳥獣	返還譲渡	死亡	7月末収容数
（鳥類）								21	モズ		2			2	0
1	ヤマドリ		1	1			0	22	オナガ		5	2		3	0
2	キジ		6			5	1	23	ハシボソガラス	2	1			1	2
	マガン	1				1	0	24	ハシブトガラス		2			2	0
3	コハクチョウ	9	1	6		2	2	25	シジュウカラ		1			1	0
	カルガモ	1					1	26	ツバメ		24	3		17	4
4	キジバト	2	1			1	2	27	ヒヨドリ		4	2		2	0
5	アオバト	3	2	2			3	28	ヤブサメ		1			1	0
6	ハシボソミズナギドリ		1	1			0	29	ムクドリ		12	2		10	0
7	アオサギ		1			1	0		マミジロ	1					1
8	オオバン		2	1		1	0		クロツグミ	1		1			0
9	ヨタカ		1	1			0	30	オオルリ		1	1			0
10	ウミネコ	3	2			3	2	31	スズメ		18	4		14	0
11	トビ	5	4	1		1	7	32	ハクセキレイ		4			4	0
12	サシバ		1			1	0	33	セグロセキレイ		1			1	0
13	ノスリ	2	4	1		1	4	34	カワラヒワ		6			6	0
	クマタカ	1					1	35	ドバト		5	1		4	0
14	フクロウ	2	1	2			1	36	レースバト		1		1		0
15	アオバズク		3	1		1	1	37	不明		2			2	0
16	トラフズク		1	1			0	小計		35	131	39	1	91	35
17	アカショウビン		1	1			0	（獣類）							
18	カワセミ		1			1	0	1	ムササビ		2			1	1
19	コゲラ		1			1	0	2	アブラコウモリ		1			1	0
20	チョウゲンボウ	1	6	4		1	2	小計		0	3	0	0	2	1
	ハヤブサ	1					1	合計		35	134	39	1	93	36

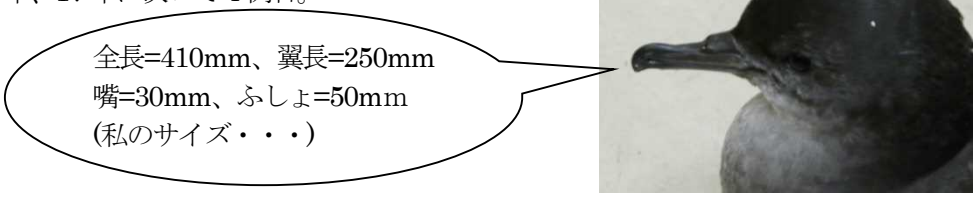
平成31年4月1日～令和元年7月31日までの収容数は、鳥類37種131羽、獣類2種3頭で、昨年度の同時期（鳥類197羽、獣類3頭）と比べ鳥類は減少しました。

＜特記事項＞

・ハシボソミズナギドリ

5月8日、新潟市中央区末広町の工場内で保護され、動物病院処置後、翌日センターに収容されました。強風で内陸地へ飛ばされたと推測されますが、骨折や外傷はなく元気な状態でした。ワカサギを給餌し5月10日に放鳥しました。　収容時の体重：461g

この個体は、平成7年、10年、17年に次いで4例目。



釣り糸や釣り針は持ち帰りましょう

愛鳥センターに収容される野鳥たち（特にカモメ類）の中には、釣り糸（テグス）や釣り針による被害を受けたものが多く見られます。

池や海岸に捨てられた釣り糸にからまると、身動きが取れなくなったり、血が通わなくなって足が取れてしまったりします(釣り糸は丈夫なためなかなか切れず、しかも腐りません)。釣り針がついたまま捨てられた魚やルアーなどをエサと間違えて飲み込むものもいます。

針がのどの奥深くに食い込むと、エサが食べられず弱って死んでしまいます。

予防はかんたん。**「釣り糸や釣り針を捨てない」ことです。**捨てられた釣り糸や釣り針はゴミとなるだけでなく、野鳥の命も奪っているのだということを多くの方に知っていただき、基本的なマナーを守るということを心掛けていただければと思います。

§４月～7 月の探鳥会・観察会§

4/21（日）春の渡りを見る会　6:30～9:00　（天気　曇り）
場所：大峰山　参加者：４４名　観察種：４３種【①】

集合場所の駐車場で最初にサシバが出現しました。田んぼではセキレイ類やツバメなどを観察し、林道ではクロツグミ、ヤブサメ、ミソサザイなどのさえずりを聞きながら歩きました。キバシリの声も聞かれました。上空にはヒヨドリやマヒワ、カワラヒワなどの群れが移動し、春の渡り最盛期の探鳥会でした。

5/6（月・振）春の初心者探鳥会　8:30～10:00　（天気　晴れ　）
場所：愛鳥センター周辺　参加者：４３名　観察種：２０種【②】

最初に桑原先生から、鳥の棲む環境や鳥が食べる餌について、鳥の形の違いについてなどわかりやすく説明をしていただきました。
探鳥路に出ると、クロツグミやエゾムシクイのさえずりがあちこちで聞こえました。木の葉が伸びてきていて鳥の姿を見つけるのは難しかったですが、ホオジロが羽づくろいをしている姿やキビタキの姿などを観察することができました。

野鳥の基礎について学びました

5/12（日）愛鳥週間探鳥会　6:30～9:15（天気　晴れ　）
場所：大峰山　参加者：31 名　観察鳥種：39 種【③】

スタートしてすぐに木のてっぺんにとまっているサシバを全員で観察しました。林道ではオオルリ、キビタキなどの声がよく聞かれましたが、なかなか出て来ず、姿はあまり見られませんでした。サンコウチョウやアカショウビンの声も確認できました。最後にはサシバとクマタカが飛んでいる姿を見ることができました。

5/26（日）紫雲寺記念公園探鳥会　8:30～10:00（天気　晴れ　）
場所：愛鳥センター周辺　参加者：10 名　観察鳥種：21 種【③】

愛鳥センターの近くの畑と探鳥路で探鳥しました。畑ではホオジロの姿をじっくり観察でき、上空を飛ぶミサゴの姿を見ることができました。探鳥路ではキビタキの姿も見られました。クロツグミやオオムシクイもよくさえずっていました。気温が高く、虫の多い探鳥会でした。

探鳥会の確認鳥種

No.	種名	①	②	③	④
1	キジ	●	●	●	●
2	カルガモ			●	
3	キジバト	●		●	●
4	アオバト	●			
5	アオサギ	●		●	
6	ダイサギ	●		●	
7	ツツドリ	●		●	
8	カッコウ				●
9	ミサゴ				●
10	トビ	●			●
11	サシバ	●		●	
12	クマタカ			●	
13	フクロウ		●		●
14	アカショウビン			●	
15	カワセミ		●	●	●
16	コゲラ	●	●	●	●
17	アカゲラ	●		●	
18	アオゲラ	●		●	
19	サンショウクイ	●		●	
20	サンコウチョウ			●	

No.	種名	①	②	③	④
21	モズ	●			
22	カケス	●		●	
23	ハシブトガラス	●	●	●	●
24	コガラ			●	
25	ヤマガラ	●		●	
26	ヒガラ	●		●	
27	シジュウカラ	●	●	●	●
28	ツバメ	●	●	●	●
29	イワツバメ	●			
30	ヒヨドリ	●	●	●	●
31	ウグイス	●	●	●	
32	ヤブサメ	●		●	
33	オオムシクイ				●
34	エゾムシクイ	●	●		
35	センダイムシクイ	●	●	●	
36	メジロ	●	●	●	●
37	キバシリ	●			
38	ミソサザイ	●		●	
39	ムクドリ	●	●	●	●
40	クロツグミ	●	●	●	●

No.	種名	①	②	③	④
41	コマドリ	●			
42	ジョウビタキ	●			
43	コサメビタキ		●		
44	キビタキ		●	●	●
45	オオルリ	●		●	
46	スズメ	●	●	●	●
47	キセキレイ	●			
48	ハクセキレイ	●		●	●
49	セグロセキレイ	●		●	
50	カワラヒワ	●	●	●	●
51	マヒワ	●			
52	イカル	●		●	
53	ホオジロ	●	●	●	●
54	カシラダカ	●			
55	ノジコ			●	
56	アオジ	●	●		
	計	43	20	39	21

§子ども野鳥教室　§

愛鳥センターの探鳥会には時々鳥好きのお子さんも参加してくれます。そんな子どもたちに向けて、夏休みに鳥について学ぶ新企画、子ども野鳥教室を開催しました。

7月28日(日)に第1回「バードウォッチングの楽しみ方」、8月4日(日)に第2回「鳥のかたち」のテーマで野鳥講座＋観察会を行いました。

第1回は、鳥が好む場所を覚えると見つけやすくなることや、鳴き声の覚え方、見つけた鳥を見分けるためのポイントなどについて、映像や標本も使いながら解説をしました。双眼鏡の使い方を練習した後、愛鳥センター周辺で野鳥を観察しました。スズメやカワラヒワを双眼鏡で見ることができました。(参加者6名)

鳥の生態を真剣に学んでいます

第2回は、最初に鳥がなぜ飛べるのかについて解説し、次にそれぞれの種類で翼や足やくちばしなどの形が違う理由について解説しながら、標本をさわって見比べてもらいました。その後、外に出て飼育舎で飼育中の鳥の様々な部分の形を間近で観察しました。(参加者 4名)これからも鳥に興味を持って観察を続けてもらえたら嬉しいです。

§工作教室　§

毎年恒例の工作教室、今年は7月28日(日)にバードセイバー作りを行いました。(参加者15名)

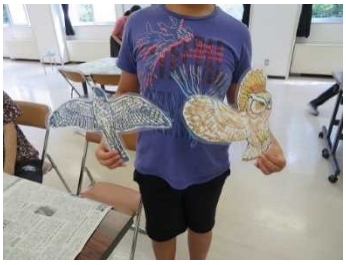
日本野鳥の会新潟県の桑原哲哉先生を講師に迎え、最初にバードセイバーとは何か？何のために作るのか？を教えていただきました。

鳥は窓ガラスに景色が映っていると、ガラスがあることに気づかず飛び込んでしまい、ぶつかることがあります。愛鳥センターにも、ぶつかった鳥が搬入されることがあります。事故を防ぐために窓に貼る、猛禽類の形をしたステッカーをバードセイバーといいます。

今回はチョウゲンボウ、ハイタカ、オオコノハズクの3種類の中から好きなものを選んで作りました。オオコノハズクが人気でした。

画用紙に描かれた下絵に色鉛筆や絵の具で色を付けて塗り終わったら鳥の形に切ってラミネートをかけ、余計な部分を切り落とし、両面テープを貼ったら出来上がりです。みなさんそれぞれにこだわって色を塗っていて、個性のある素敵なバードセイバーができました。おうちの窓に貼って、鳥がぶつかる事故を減らしてもらえたらと思います。

本物そっくりに作れました！！



§子ども野鳥教室§

毎年人気の巣箱作り教室を、8月17日(土)、18日(日)に開催しました。(参加者:17日6組19名、18日7組18名)

最初に作り方の簡単な説明の後、新潟県野鳥愛護会の白井康夫先生に、巣箱をかける意味や巣箱を使う野鳥についてお話しいただきました。

それから作業開始です。まずは板を選び、設計図通りに線を引いたらのこぎりで切っていきます。のこぎりを使うのが初めての子もいましたが、保護者の方に教わりながら頑張って切っていました。次に、巣箱の出入り口の穴を開けます。今回はスズメ用(直径3cm)とシジュウカラ用(直径2.7cm)の2種類から選んでもらいました。底板に水抜き穴と背板にひもを通す穴も開け、組み立てていきます。屋根にちょうつがいをつけて、最後にカラスなどの外敵がいたずらをしないように針金でカギを付けたら完成です。

完成後に先生から、巣箱を取り付ける高さや方角、雨が入らないように少し前に傾けることと、猫、カラス、ヘビなどの動物に気をつけること、それから何より人間に気をつけることを教わりました。

作った巣箱は家の近くの木に取り付けて、来春に鳥が巣を作ることを楽しみに！

慣れない工具を使いながら保護者の方と頑張りました

§スタンプコレクション§

愛鳥センター職員がデザインした「消しゴムはんこ」のスタンプをコレクションしませんか！

来館する毎に 1 個のスタンプをカードに押して、2 個で鳥の写真はがき 1 枚、5 個で鳥の写真はがき 3 枚、8 個全部そろったら粗品をプレゼントします。

§ホームページが新しくなりました§

いつも愛鳥センターホームページをご利用いただきありがとうございます。

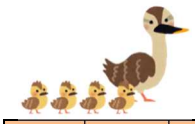
誰もが使いやすく、見やすいホームページを目指して、ホームページをリニューアルしました。

変更前のアドレスにアクセスした場合でも、原則、新しい Web ページが表示されます。

リニューアルに伴い、アドレスが変更になりますので、「お気に入り」などに設定されている場合は、修正をお願いします。

新 URL↓↓↓
https://www.pref.niigata.lg.jp/site/aicho/

今後ともよろしくお願いします。



◆　4～7 月の利用者数

月	4 月	5 月	6 月	7 月	計	累計
来館者数	658	2924	1015	567	5, 164	625, 479

館内設置のトキ募金箱の報告

令和元年 5 月～令和元年 8 月 **2，５５７円**
累計**２９２，５４６円**
みなさまの暖かい善意に深く感謝いたします。
今後ともご協力をお願いいたします。

新潟県愛鳥センター紫雲寺さえずりの里
開館時間：午前 9 時～午後 4 時
休館日：毎週月曜日（祝日の場合は翌平日）
〒957-0231 新発田市藤塚浜海老池
Tel 0254-41-4500／Fax 0254-41-4501
HP：https://www.pref.niigata.lg.jp/site/aicho/
（URL が変わりました）
E-mail：ngt035310@pref.niigata.lg.jp

1 月までの行事予定

探鳥会《参加費、申込み不要です。現地集合･解散となります。双眼鏡や図鑑の貸出しがあります。》

・秋の渡りを見る会（ビュー福島潟駐車場集合）
10/20（日）　9：00～11：00

・紫雲寺記念公園探鳥会（愛鳥センター集合）
※要申込み
10/26（土）　9：00～10：30　定員：20 名
申込先：紫雲寺記念公園管理事務所　0254-41-3740

・冬の初心者探鳥会（瓢湖白鳥会館駐車場集合）
11/17（日）　8:00～ 9:30

・鳥屋野潟市民探鳥会
（鳥屋野潟公園東屋「いやしの庭園」（中央区鐘木）集合）
12/1　（日）　8:00～10:00

・五十公野公園探鳥会（五十公野公園駐車場集合）
12/8（日）　9:00～11:00

観察会、講座

・足跡ウォッチング（愛鳥センター集合）
1/26（日）　9:00～11:00

講演会ほか

・愛鳥講演会（県立生涯学習推進センター）
11/23（土･祝）13:00～15:30
内容：テーマは「シギ・チドリ」です。
講師：千葉　晃　氏（日本歯科大学 名誉教授）
藤田 正明　氏（新潟県野鳥愛護会）
参加費：無料　/　定員：150 名（先着）
申込：11 月 13 日（水）までに愛鳥センターへお申込みください。

・冬季特別展（2 階ロビーで展示）
11/2　（土）～2/16（日）

・野鳥写真展開催
県内で撮影した野鳥写真を募集します。
詳細な応募条件等は HP などをご覧いただくか、直接愛鳥センターへお問い合わせください。
募集：10/上旬～1/6（月）（予定）